

がん政策サミット 2012春

～ 都道府県第2期がん計画を、六位一体でより良いものに～

2012年5月11日(金)、12日(土)、13日(日)



日本医療政策機構 がん政策情報センターは、2012年5月11日(金)から13日(日)の3日間、東京都千代田区で「がん政策サミット2012春」を開催しました。

都道府県第2期がん計画策定の年にあたる今回は、「六位一体でより良いがん計画策定を行う」をテーマとしました。都道府県がん対策推進協議会(またはそれに準ずる会)の現患者委員と委員経験者、および公募枠による患者関係者計65人(31都道府県)、都道府県議会議員24人(18都道府県)、都道府県庁のがん対策担当者37人(26都道府県)、都道府県がん対策推進協議会(またはそれに準ずる会)の会長および都道府県がん診療連携拠点病院の医師計14人(11都道府県)、総勢140人が参加。加えて民間の立場として企業関係者、学術関係者、メディアなどが傍聴参加しました。

がん計画策定のワークショップでは、事前に調べた情報を参考に、立場を超えて白熱した議論が交わされました。また、国のがん対策推進協議会、厚生労働省の協力を得て開催した「特別セッション・国の計画を学ぶ」では、閣議決定間近の国のがん計画に関する説明があり、全国から参加した関係者が聞き入る場面もありました。

計画の作り方を学び合い、地元を持ち帰る

今回のサミットでは、世界保健機関(WHO)のがん対策シリーズ第1巻「計画策定」で提唱されている 1)現状を知る、2)目標を設定し計画を策定する、3)実行し評価する、の3ステップに従い、都道府県がん計画を策定する「やり方」について学びました。

セッション1「地域の現状を知る」では、データを確認することの重要性を再確認し、セッション2「患者・現場・地域の声を集める」では、生の声を集める有効な方法について議論しました。

セッション3「計画を組み立てる」では、あるべき姿＝最終目標達成のために必要な施策を考えるプロセスについて、ロジックモデルを使用して考えました。

セッション4「日程案を作る」では、がん計画策定のために必要な活動のカレンダーを書きました。

全プログラムを、「地元を持ち帰る」ことを意識して組み立てました。今後ここで得た情報と知恵を、参加者が自県のがん計画策定にどう生かせるか、カギはここにあるといえます。



特別セッション 「国のがん計画から学ぶ」

都道府県がん計画策定にあたっては、国の情報を理解しておくことも大切です。

国のがん対策推進協議会会長・門田守人さんからは、国の第2期がん計画では質の評価をしていく必要があることが述べられ、厚生労働省がん対策推進官・鷺見学さんからは、がん対策の質の評価は簡単ではないものの、今後指標の構築に向けて厚労省として取り組んでいく旨が話されました。

国のがん対策推進協議会に患者の立場として参画し、同会の会長代理も務める天野慎介さんからは、同じ立場であるサミット会場の患者関係者に向けて、「救える命が救えるようになっているか」「命をかけて何かなすべきことができているか」という問いかけがなされました。

最後に、2012年4月に国立がん研究センター理事長に就任された堀田知光さんからは、国の第2期がん計画に書かれた国立がん研究センターの役割に加え、研究所が生み出したシーズを実際の治療に生かす取組みへの抱負が述べられました。



特別プログラム

国会がん患者と家族の会 総会 (超党派議員連盟)

「地域がん登録の体制整備を考える」というテーマで、同会事務局長の梅村聡さんによる問題提起のあと、意見交換が行われました。会場の患者関係者からは、「地域がん登録を法制化してデータを揃え、治療・研究の開発、がん登録にかかる人的リソースの確保につなげてほしい」という声が相次ぎました。

同会代表世話人の尾辻秀久さんは、「難しい法律なので、議員立法で議員が命がけでやるしかない。若手の議員が『命をかける』とおっしゃらないと、成立しない。」と強調されました。



当日は、衆議院本会議と重なったため、参議院から議員6人、議員秘書14人が参加。日本医学会会長、厚生労働省健康局長、国のがん対策推進協議会長も参加し、熱心に会場の声に耳を傾けていました。

参加者の声から

- 適切なテーマ設定であった。[患者関係者]
- 患者会(自分たち)が県計画策定にどうかかわっていくのかが理解できました。[患者関係者]
- まさに今、職場で毎日議論しているテーマでもあったので、そのテーマで自分たち以外の多くの人々の意見を聴けたことが大変役に立った。[行政担当者]
- (国のがん計画セッションを受けて)県計画のチェックポイントが分かったような気がする。[県議会議員]
- 患者さんの意見を直に多く聞けてよかった。[医療提供者]
- 患者／行政／議員／医療者／民間／メディアを共通のプラットフォームに乗せてヨードンで議論を行うスタイルは成果に結び付けやすいし、それを全ての都道府県をまたいで行うことで全国一律の活動を行える。もしくは競いあって進めて行くことで、情報の横連携、好事例の共有化ができる仕組みができてるのが素晴らしいと思う。[傍聴参加者]
- 実際に会って話ができる場があるのはとても役に立っています。サミットの継続を望みます。[患者関係者]

患者関係者セッション「患者主体でがん対策を進めるには」

サミット3日目は、患者関係者のみを対象とした「アドボカシーワークブック勉強会」と「患者主体でがん対策を進めるには」を開催しました。

勉強会では、日常の患者会／アドボカシー活動に関して意見を交わしました。ある参加者からの「時間と体力に制限がある人が、どうしたらリーダーとなり得るのか」という問いかけは、参加者の共感を呼びました。日ごろは各地で個々に活動する患者アドボケートの心がつながった瞬間でもありました。

また、米国の代表的アドボケートのひとりであるポーラ・キムさんより、アドボカシー活動のポイント10カ条についての話がありました。また、自身が患者会を立ち上げた経緯、自分の活動ポリシーの話と共に、「大切なことから始めましょう」というメッセージが伝えられ参加者は大変励まされたようです。

後半のセッションでは、サミットのグループワークを通じて感じた、関係ステークホルダーとの協働について意見が交わされました。その中で、「サミットで使われている用語が難しすぎる」というお声があった一方で、「患者が勉強して相手の言葉についていく努力も必要」「行政と話すときには行政用語を使えないといけない」という積極的な意見も出しました。



がん政策サミットは、患者関係者同士の出会いの場、共感、励まし合いの場でもあります

がん政策サミット 2012 春

～都道府県第2期がん計画を、六位一体でより良いものに～



※肩書とは開催当時のものです。がん政策サミットのレポートは <http://ganseisaku.net/> に掲載中。



日本医療政策機構
市民医療協議会
Commission on Citizens and Health

特定非営利活動法人 日本医療政策機構 市民医療協議 がん政策情報センター

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-10-101

TEL: 03-3222-6532

FAX: 03-3222-6525

Email: info-gan@hgpi.org